

修身小學

卷四

臨川小學堂

T1A1

22

Y 86

吉田利行編輯

版權

所有

# 修身小學

星文館藏版

修身小學卷之四

吉田利行編

## 第一章

○孝は百行の本。衆善の  
はしめなり。後漢書

○父母に對しては色を  
和げ氣をくだし温和を  
主として事ふべし。家道訓

○父母の愛する所は亦  
これを愛し父母の敬す

る所は亦これを敬す。禮記

○孝は親をやすんずる

より大なるはなし。楊子法言

○子の罪は父母を累は  
すより大なるはなし。後漢

書

○父母の教誡に従ひて。  
怒りうらむべからず。禮記

## 第二章

○兄弟は同胞の親しみ。

父母につぎたる。天倫なり。初學訓

○兄をいつくしみ敬ふ  
は、弟なり。童子訓

○若し兄より、弟を愛せ

ずとも。弟は弟の道を失ふべからず。同上

○親戚傍輩の内にても。年老いたる長者をば敬ひて。侮ることなかれ。是

則ち弟の道なり。同上

### 第三章

○其土地より生ずる穀を食し。其國に居るもの皆君の徳をいたゞくな

り。日新館童子訓

○君に事ふる人はひとへに君のために忠をのみ志して私を忘れ我が身を顧りみることもな

れ。初學訓

○今の世に生まるゝ人。亂世にあはず。治世にすめるは。大なる幸なり。同上  
○大君の御めぐみによ

りてかゝる太平の樂一  
みをうくることをよる  
こふべー。同上

## 第四章

○水は方圓の器に従ひ。

人は善惡の友による。今川

帖

○善人と同く處るとき  
は日々に嘉訓を聞き惡  
人と伴ひ遊ぶときは日

日。に。邪。心。を。生。ず。

爰延

○友。だ。ち。は。吾。が。心。を。つ  
く。て。隔。て。な。く。い。ひ。か  
は。し。正。し。き。善。事。を。い。ひ  
聞。か。せ。導。く。べ。し。

大和小  
學

○朋。友。の。間。あ。し。き。事。あ  
ら。ば。面。前。に。い。ふ。べ。し。か  
げ。に。て。そ。し。る。べ。か。ら。ず。

初學訓

○朋。友。は。善。を。責。む。る。と



修身小傳 卷之四 星文館  
て異見いふは人の道な  
れども故なく人の過ち  
をいふべからず。日新館  
童子訓

### 第五章

○學ぶ者は志を以て本

とす。志なければ書を讀  
むこと博一と雖も身に  
益なし。慎思錄

○志の立たざるは其根  
を種ゑずして徒に培養

灌漑を事とするが如し。

王陽明全集

○書を讀まば。我が身に受用することを專一に志すべし。大和俗訓

○受用とは。書に記せる教へを。我が身に受け用ひて。守り行ひ。用に立つるをいふ。同上

## 第六章

○惡には趣き易し。故に  
懼るべし。善には進み難  
し。故に勉むべし。五常訓

○善を爲すは惡を捨つ  
るに如かず。過を救ふは

非を省くに如かず。省心  
雜言

○心の中に邪惡を隠し

て裏表あるべからず。童子

訓

○中にまことあれば外

にあらはる。大學

○人と約せば信を失ふ

ことなかれ。大和俗訓

○信とは言にいつはり  
なくてまことあるをい

ふ。童子訓

○かろくく受け合

へば其約違ふ。大和俗訓

○後に信を守り難きこ

とは始めより約すべか

らず。童子訓

## 第七章

○少かき時。ひまを惜—  
みて。學問をつとむべ—  
一生の寶となるものな

り。大和俗訓

○大禹は。聖人なれども。  
寸陰を惜—めり。衆人に  
至りては。まさに分陰を  
惜—むべ—。小學

○けふ暮れて明日もありとてたのむべからず。けふの日の内を日々に惜しむべし。樂訓

## 第八章

○君子はつゝまざる。ことなまきなり。身をつゝむを大なりとす。大戴禮  
○身を慎み。生を養ふは。是人間第一の重くすべ

まことなり。養生訓

○食は身を養ふ物なり。  
身を養ふ物を以て却て  
身を傷ふべからず。同上  
○禍は口より出で病ひ

は口より入る。故に言語  
を慎みて飲食を節にす  
べし。要覽

○多く飲食すべからず。  
多ければ脾胃をやぶり。

元氣をそこなふ。

秘事記

○食後には必ず數百歩  
歩行して氣をめぐら  
食を消すべし。眠り卧す  
べからず。

養生訓

○養生の術は勤むべき  
事をよく勤めて身を動  
かし氣をめぐらすを善  
しとす。

同上

○人の壽の長短は攝生



の道を盡くすと。盡くさ  
ざるにあり。同上

## 第九章

○客の至ることあらば。  
速かに應ト。出で、禮一

て。其姓名を問ひ。父母に  
告げよ。童子習

○客を得ては。奴僕は勿  
論。犬猫の類に至るまで。  
叱ることあるべからず。

日新館 童子訓

○父母の方へ客あらば。父母の言ひつけに従ひ。事をとく。のへ早く辨ずるやうにすべし。同上

○飲食を進むる者は口氣の其品に及ばざるやうにすべし。同上

○飲食を取りて進むる間。人問ふことあらば。片

向きて答ふべし

同上

○立つに授くるには跪かず。坐するに授くるには立たず。禮記

○器物あらば慎みて跪

き。あまへ移して通るべ

し。大和小學

## 第十章

○家のわざをよく勤むる人は必ず富む。家道訓

○身の事をよく慎めば。

必ず禍なし。同上

○人憎りて侈れば貧し。

力めて儉なれば富む。管子

○侈りは惡の大なるも

のなり。左傳

○儉約ならざるは困窮

の本なり。大和俗訓

○勤むれば貧にかち慎

めば禍にかつ。家道訓

修身小傳 卷之四  
○勤めて自ら得る利は。

眞の利なり。大和俗訓

○利専ら貪れば必ず害

あり。同上

○及ばざる富貴を羨み

願ふべからず。同上

修身小學卷之四終

明治十八年六月五日版權免許  
同 年八月 刺成

編輯人 吉田利行

福岡縣上族

福岡縣福岡區福岡市職命字八番地

出版人 林 斧次

同

同縣同區同箕子町百三十番地

製本所 星 文官

同縣同區同下多